

歎異抄 第五章

一 親鸞は父母の孝養のためとて、
一返にても念仏申したること、いまだ
候はず。そのゆゑは、一切の有情はみ
なもつて世々生々の父母・兄弟なり。
いづれもいづれも、この順次生に仏に
成りてたすけ候ふべきなり。わがちから
にてはげむ善にても候はばこそ、念仏を
回向して父母をもたすけ候はめ。ただ
自力をすてて、いそぎ浄土のきとりをひ
らきなば、六道四生のあひだ、いづれ
の業苦しづめりとも、神通方便をも
つて、まづ有縁を度すべきなりと「云々」。

わたくし親鸞は、亡くなった父母の追善供養のた
めだといって念仏をしたことは一度もございませ
ん。といたしますのは、因果の理に説かれるように、
生きとし生けるものは前世においてわが父母であ
り、わが兄弟であるからです。ですから、限りある
いのちの今生と、限らないいのちの前生と来生を数
えきれぬほど行き来するなかで、今生のわが父母、
わが兄弟ばかりでなく、すべての生きとし生けるも
のを救うことが大切だと考えています。その際、自
ら努力して善行を積み、その功徳を振り向けて六道
をさまよう父母兄弟を救うと考える方もいるでし
ょう。しかし、わたしはそのような善行を積める人
間ではなく、他力念仏も他に振り向ける念仏ではあ
りません。

私は唯だ、自力で称える念仏を捨て、他力念仏で
来生の浄土へ参ることを願っています。なぜなら、
阿弥陀如来の不可思議な慈悲のはたらきにかかせ
ることこそ、迷い苦しむ世界と、その世界に生きる
わたしたち、わたしたちの父母兄弟を救う、唯一の
方法であると信じるからです。

【孝養】本来は孝行の意味であるが、ここは亡き父
母に対するもので、追善供養の意味になる。

【有情】この世に生命をもつて存在するもの。衆生。

【世々生々】遠い過去から現在、未来へかけて、い
くたびもいくたびも生まれかわること。

【順次生】前生から今生、来生へつながる、いのち
の大きいなるながれ。

【回向】梵語。パリナームの訳で原意は「転回するこ
と」。修行の徳を他にめぐらすこと。

【六道四生】迷い苦しむ世界と、その世界に生きる
もの。

【業苦】業因苦果の略。行為が因となって生じる苦。

【神通方便】不可思議なはたらき。如来の限りのな
い自由自在なはたらき。

【有縁】縁あるもの。

【度す】「渡す」と同じ。迷いの此岸から悟りの彼
岸へ渡すことで、救いを指す。